

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	22 -	事業名	大学連携事業	担当部課	くらし文化部たつせがある課
------	------	-----	--------	------	---------------

基本情報	総合計画	基本方針	5	みんなの力を結集する自治と協働のまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	3	大学をまちづくりに生かす	款	2	総務費
		施策の進め方	-		項	1	総務管理費
	まちづくり行程表	フラッグ	F1	「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～	目	9	まちづくり協働費
		政策分類	1	住民の力を生かした新しい役割分担の仕組みをつくる	大事業	7	大学連携事業
	その他(関係法令、要綱等)	大学連携推進協議会設置要綱、大学連携推進ビジョン4U					
事業開始の背景、経緯等	市内4大学と包括的な連携に関する協定書をそれぞれ締結し、個々の大学との連携については実績を積み重ねているが、第5次総合計画の基本施策「大学をまちづくりに生かす」を具体的に進めていくため、市と市内大学による長久手市大学連携推進協議会を設置した。						

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 市内4大学をはじめ近隣の大学と連携し、大学・地域・市が協働するまちづくりを推進するため次の事業を行う。 ①大学連携推進協議会、大学連携連絡調整会議等の開催及び協議会主催の連携事業の実施 ②大学から提案のあったまちづくり事業への助成(大学連携提案助成金事業) ③大学連携基本計画の策定					
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市内4大学、近隣大学、市民、企業及び行政					
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 大学と行政の連携事業の推進体制を確立するとともに、市民が大学、行政と連携した事業に様々な形で身近に参加できるようにする。					
	事業を構成する事務事業	① 大学連携事務事業	拡充	④			
	② 大学連携提案助成金事業	拡充	⑤				
	③ 大学連携基本計画策定事業	休・廃止	⑥				

コスト推移	項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	事業費(A)	千円	予算		1,295	5,482	3,932	1,344
			決算		438	1,044	3,601	
	人件費(B)	千円	決算		7,638	6,111	7,008	
総コスト(A)+(B)	千円	決算		8,076	7,155	10,609		

成果推移	成果指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	A 大学連携事業実施件数	件	目標	42	30	40	40	40
			実績	21	39	38	23	
	B		目標					
			実績					
	C		目標					
実績								
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) A 大学と連携した事業をより多く企画、実施できるようにするため、本市における大学連携事業実施件数を成果とする。 B C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 大学との包括連携協定を実施している近隣の実施市町：瀬戸市(大学コンソーシアム)、尾張旭市、日進市、豊明市、東郷町、みよし市、豊田市
------	-----------------------	---

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 事業実施件数の目標は達成していないが(平成29年度は調査中)、大学と連携して事業を実施することについては、「大学連携推進ビジョン4U」の策定や、それに伴うイベント(「コラボ！逆指名大会」など)の実施により、市職員始め市民、企業等へ浸透しつつある。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 大学と市との連携を更に強化し、「大学連携推進ビジョン4U」に基づく新たな連携事業を検討していく。また、今後、市外大学との包括連携協定の実施や相互連携の方向性を考える必要がある。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 「大学連携推進ビジョン4U」に基づく大学と連携した事業を、より多く企画、実施できるようにする。また、大学だけでなく市民や企業、市外の近隣大学を絡めた事業も検討していく。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 「大学連携推進ビジョン4U」の計画期間の最終年度である平成39年度を目途に、ビジョンに基づく事業を展開していく。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		大学連携事業									
番号	①	事務事業名	大学連携事務事業	款	2	項	1	目	9	大	7	中	1
事務事業の期間		事務事業開始年度		平成24年度		終了（予定）年度		—					

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	市内4大学をはじめ近隣の大学と連携し、大学連携推進協議会、大学連携連絡調整会議等の開催、学生向けの市長秘書インターンシップ等を実施する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	市と大学との連携を密にし、まちづくりに活用する。市長秘書インターンシップに参加してもらうことで、学生に市政について意識してもらう。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算		653	690	240	944
		決算		338	324	201	
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
① 愛芸アシスト法人会費						100	千円
② 特別旅費						62	千円
③ 普通旅費						15	千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
協議会及び連絡調整会議実施	人	目標	6	6	6	6	6
		実績	5	4	4	3	
市長秘書インターンシップ応募者数	人	目標	7	7	8	6	8
		実績	7	7	3	8	
<備考：活動の概要（当該事業年度）>							
<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度実績：協議会3回 市長秘書インターンシップ:2人採用 先進地視察（金沢市、福井県）：11/9、10 担当職員2人 							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

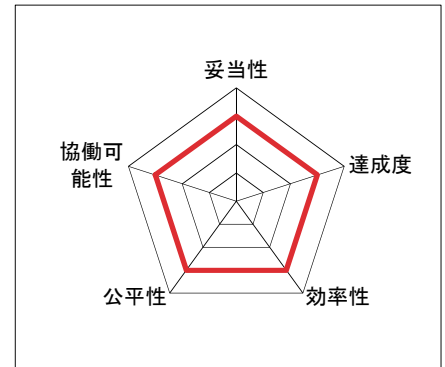
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
市外の大学から包括連携協定の打診があり、今後協定の範囲を広げ、協議会の在り方を検討する必要がある。平成30年3月に「大学連携推進ビジョン4U」（大学連携基本計画）を策定した。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
大学と連携して実施できる新たな事業を模索していく。今年度は大学連携基本計画策定の年であるため、大学における内容確認、承認を協議会を通じて実施してもらい、基本計画を策定する。
(何をどのような状態に改善したのか)
大学連携推進ビジョン4U（大学連携基本計画）策定について、大学における内容の確認や承認を協議会を通じて実施し、年度内に策定することができた。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
市長秘書インターンシップは、秘書の実習ができる機会がなく好評であり、今後も実施の希望がある。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
市が主体で協議会が実施されており、大学からの提案事項はほとんどない。

7. 今後の方向性

拡充

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
「大学連携推進ビジョン4U」に基づく事業を展開するため、市内4大学が合同で実施する事業など、新たな事業を模索していく。市内だけでなく、市外にある近隣大学との包括連携協定を進め、大学との連携事業の拡大を図る。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		大学連携事業									
番号	②	事務事業名	大学連携提案助成金事業	款	2	項	1	目	9	大	7	中	2
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成27年度	終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市内4大学と連携し、大学・地域・行政が協働するまちづくりを推進するため、大学から提案された地域の課題の解決及び地域の魅力の向上を目的としたまちづくり事業について助成を行う。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) まちづくりに関わる事業を助成することで、大学と行政の協働・連携に結びつける。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算 決算	— —	200 100	200 159	200 200	400 —
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
① 提案事業助成金						200	千円
②							千円
③							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
提案助成金事業申請件数	件	目標 実績	— —	2 1	3 4	6 2	6 —
<備考：活動の概要（当該事業年度）>							
・平成29年度実績：申請のあった2件とも採用している。 愛知県立芸術大学1件、愛知県立大学1件。交付額はいずれも10万円（上限額）。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

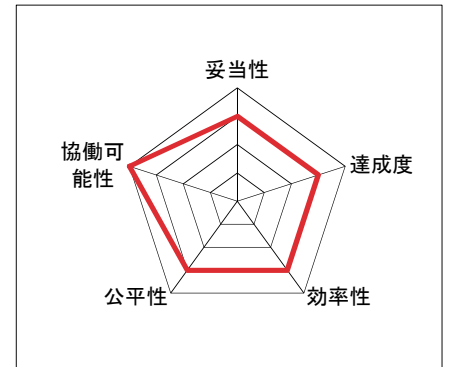
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
平成30年3月に「大学連携推進ビジョン4U」（大学連携基本計画）を策定した。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
成果品の報告発表方法を検討し、より提案者の能力の向上を目指す。学生の更なる成長を目指す、学生による申請数の増加やプレゼンテーションの参加を促すような要綱の改正を進める。
(何をどのような状態に改善したのか)
連携各課の協力により、市民向けの報告会や施設でのプレゼンテーション実施など、成果品の報告発表の場を設けることができた。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	4



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
審査方法を、申請書類のみの審査からプレゼンテーションを追加しており、提案者の能力向上に資することができるようになっている。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
学生ではなく、学生を束ねる教員によるプレゼンテーションとなり、学生の成長につながっていない部分がある。

7. 今後の方向性

拡充

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
学生の更なる成長を目指し、学生による申請数の増加やプレゼンテーションの参加を推進するため、プレゼンテーションを学生のみとするなど、要綱の改正を進める。「大学連携推進ビジョン4U」策定に伴い、平成30年度は予算を増額し、採用件数を上限10万円×2件→上限10万円×4件とし、より一層の活用を促す。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		大学連携事業									
番号	③	事務事業名	大学連携基本計画策定事業	款	2	項	1	目	9	大	7	中	3
事務事業の期間		事務事業開始年度		平成27年度		終了（予定）年度		—					

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	市内4大学をはじめ近隣の大学と連携し、大学・地域・行政が協働するまちづくりを推進するため、今後の方針を定める基本計画を策定する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	計画的に大学連携事業が進められるようにする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算		442	4,592	3,492	—
		決算		0	561	3,200	
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
①		大学連携基本計画情報提供委託				2,000	千円
②		大学連携基本計画策定委託				1,200	千円
③							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
策定委員会開催	回	目標	—	—	5	10	—
		実績	—	—	0	15	—
学生ワーキング	回	目標	—	—	—	4	—
		実績	—	—	—	4	—
<備考：活動の概要（当該事業年度）>							
<ul style="list-style-type: none"> 策定委員会は設置しなかったため、策定担当教員との打合せ回数を策定委員会開催の回数とする。実施回数：15回 策定の過程で学生ワーキングを実施することになり、市内4大学で実施した。実施回数：4回 							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

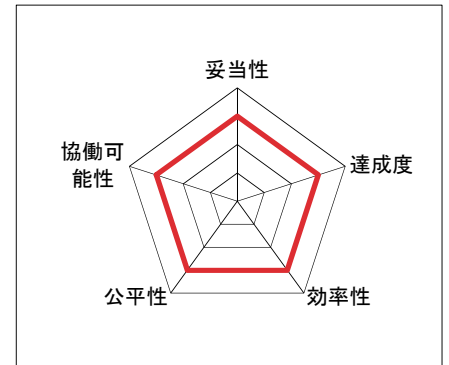
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
平成28年度策定予定であったが、策定を依頼する各大学の教員と計画に盛り込む内容や大学連携のイメージを事前に調査し情報共有するために時間を要したため、29年度に策定することになった。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
平成28年度の事前調査結果を基に、今年度は市内4大学の教員を核にした、今後の大学連携を充実させる基本方針となるような計画を策定する。
(何をどのような状態に改善したのか)
市内4大学に委託し、推薦された4人の教員と「大学連携推進ビジョン4U」を策定した。策定の過程で4大学合同の学生ワーキングを実施し、他大学の学生同士のつながりにつながった。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
実効的な計画とするため、業者委託ではなく市内4大学に委託をし、推薦された4人の教員と計画を策定した。学生ワーキングを実施し、学生による市の課題解決提案のプレゼンテーション実施につながった。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
大学との調整が難航した。計画策定の過程で市民や企業の参加が少なく、今後のつながり方を検討していく必要がある。

7. 今後の方向性

休・廃止

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
平成29年度に策定完了したため、本事業は終了となる。今後はこの計画に基づく事業を実施していく。